

所在地：高知県梼原町 選定年月日：平成21年2月12日 面積：8976.9ha 選定基準：二(一)(一)(三)(五)

(1) 概要

梼原町(ゆすはらちょう)は、四万十川上流域にあり、四万十川最大の支流である五段域(標高1456m)に源を発する梼原川の源流に当たります。

梼原町は極めて平地が少なく、町内における小規模な棚田の総面積は236haに及びます。中でも神在居(かんざいご)の棚田(2.3ha)は梼原町内に点在する棚田の中でも特に勾配が厳しく、源流域の乏しい水を合理的に利用しつつ耕作を続けてきました。

また、豊かな森林は藩政時代から梼原町の財産であり、人々は集落の共有地として常に共同で管理し、火入れをして採草するとともに樹木を伐採して薪の採取や製炭を行ってきました。特に昭和30年代に高まった国内の木材需要に答えるために行われた拡大造林により、梼原町は大林業地帯となりました。昭和50年代には、多くの山村が構造不況に基づき林業活動を手控え始める中で、梼原町は、町単独事業を通じて林業に常に積極的な姿勢を示し、1990年代以降においても地域内連携の組織化や国際的な森林認証制度による高付加価値化を積極的に図ることにより、一貫して林業による地域づくりを進めています。

このように、「四万十川流域の文化的景観 上流域の山村と棚田」は、四万十川上流域の厳しい自然条件の下で営まれた林業と小規模な棚田の耕作によって形成された文化的景観です。



梼原川に架かる初瀬橋



河岸に咲く岸つつじ

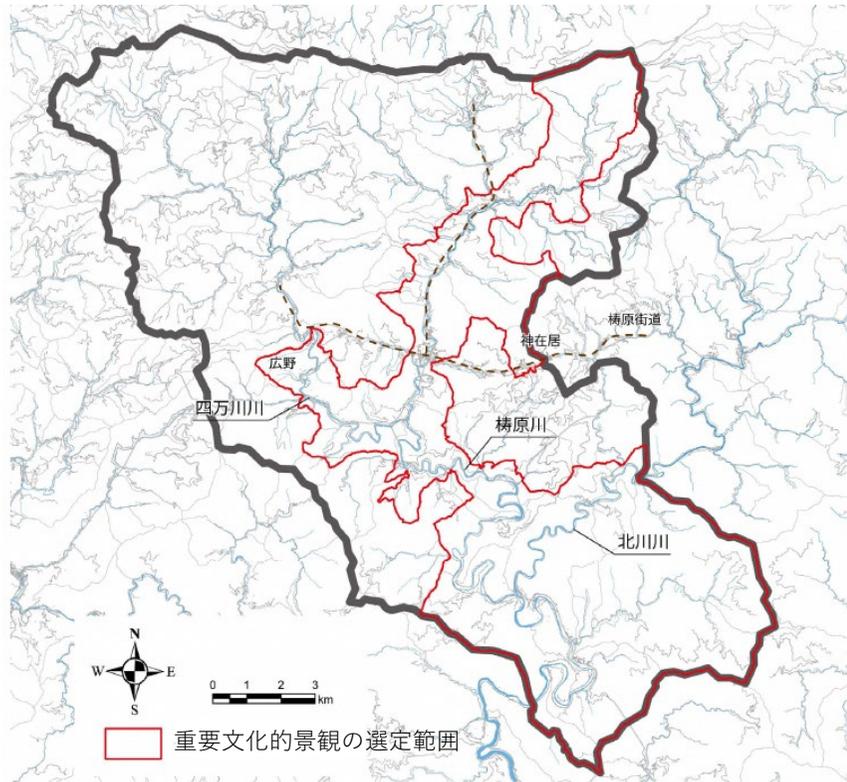


神在居の棚田



棚田の石積み

（2）選定範囲



- 重要な構成要素：56件

（3）選定による効果

重要な構成要素である神旧掛橋和泉邸では、令和2年度に、地元の茅葺職人によって茅葺の葺き替えが行われました。

また令和5年度には、土間の三和土や建具の修繕を行い、土間の三和土修繕の様子を公開し、地元の子どもたちや住民、また観光客にも見学していただき、地域の文化財の魅力について再発見してもらう機会が創出されました。



旧掛橋和泉邸 茅葺の葺き替え



土間の三和土見学会

（4）保存活用計画などの基礎情報

- 梶原町文化的景観の保存・整備計画四万十川上流域における山村宗拓と棚田景観(平成26年3月、津野町)(平成22年度追加申請、梶原町)
- 四万十川流域の文化的景観「上流域の山村と棚田」保存活用計画(令和5年3月、梶原町)
- ホームページ

<http://www.town.yusuhara.kochi.jp/town/kakuka/kyouiku/entry-527.html>

(5) 活用事例

四万十川流域の文化的景観
 四万十川流域の文化的景観
 四万十川流域の文化的景観
 四万十川流域の文化的景観
 四万十川流域の文化的景観

源流域の山村
 上流域の山村と棚田
 上流域の農山村と流通・往来
 中流域の農山村と流通・往来
 下流域の生業と流通・往来

(高知県津野町) No.39-01
 (高知県梶原町) No.39-02
 (高知県中土佐町) No.39-03
 (高知県四万十町) No.39-04
 (高知県四万十市) No.39-05

事例39-01~05 ①

5市町連携による一体的保護を進める「四万十川流域文化的景観連絡協議会」

文化庁補助金

●行政による取り組み

四万十川流域文化的景観連絡協議会は、流域の5市町と四万十川の清流保全・流域振興の活動をする(公財)四万十川財団及び高知県文化財担当課で構成し、文化的景観を守り育てることを目的に、情報交換や施策調整を行っています。

流域で統一したデザインのロゴマークやサインの策定(平成21年度)などに連携し取り組むことにより、市町をまたいだ選定範囲において一体感のある流域景観を生み出しています。

選定から10年以上が経過し流域全体としての文化的景観の価値や意味が十分共有されていないことに課題を感じるようになり、一体的な保存・活用を進めていくために5市町が連携し保存活用計画の改定に取り組みました。(令和3・4年度) 現在は、保存活用計画の改定を受け、整備活用計画の改定に連携しながら取り組んでいます。

また、文化的景観の効果的な情報発信事業として、サスティナブル・シマント(Sustainable Shimanto)という認証制度を設け、広く情報を発信・活用できるよう取り組んでいます。(令和4・5年度)



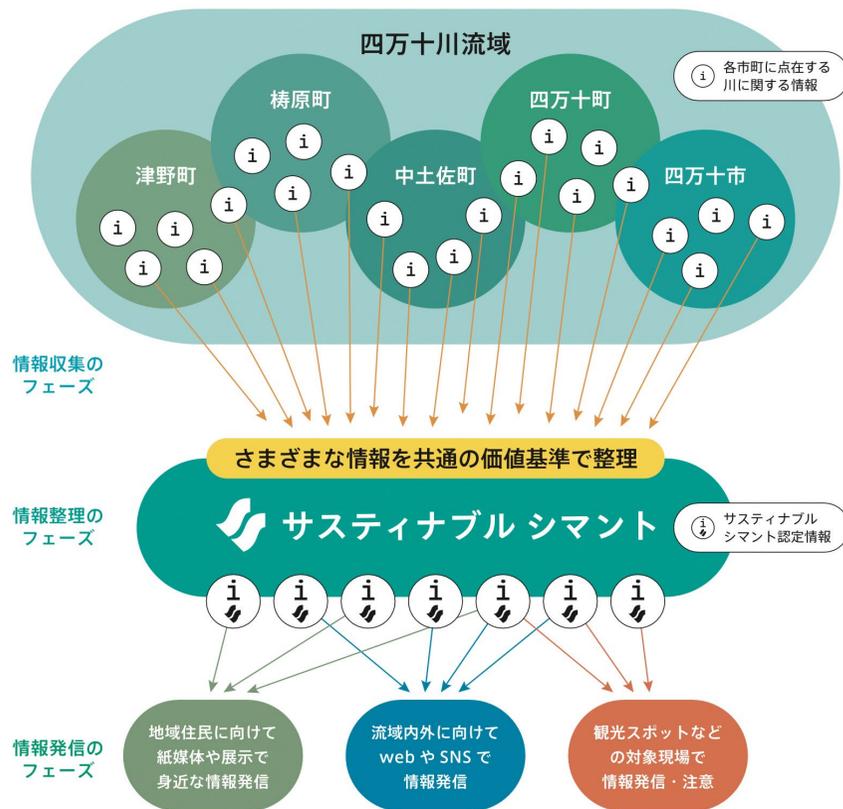
ロゴマーク



協議会の様子



5市町が連携し保存活用計画を改定



四万十川流域の情報発信事業サスティナブル・シマント

① 地域内での
魅力の共有

② 目標性の共有

③ 地域外への
広報

④ 魅力を引き出す

⑤ 資源の確保と運用

⑥ 人づくり

(5) 活用事例

四万十川流域の文化的景観
 四万十川流域の文化的景観
 四万十川流域の文化的景観
 四万十川流域の文化的景観
 四万十川流域の文化的景観

源流域の山村
 上流域の山村と棚田
 上流域の農山村と流通・往来
 中流域の農山村と流通・往来
 下流域の生業と流通・往来

(高知県津野町)
 (高知県梶原町)
 (高知県中土佐町)
 (高知県四万十町)
 (高知県四万十市)

No.39-01
 No.39-02
 No.39-03
 No.39-04
 No.39-05

事例39-01~05 ②

流域市町による「四万十街道ひなまつり」

●行政と住民等の協働による取り組み

四万十街道ひなまつりは、平成18年から実施されているひなまつりで、四万十川流域を人々が行き交う街道に見立てて名づけられています。現在は流域の住民団体でつくる「四万十遺産ネットワークス」が主催しています。

実施にあたっては、津野町、梶原町、中土佐町、四万十町、四万十市、愛媛県松野町、愛媛県鬼北町の7市町が連携・協力しています。各市町では、様々な団体や施設が協力し、ひな人形の飾りつけを行い、地域内外からの訪問客を楽しませています。展示場では、イベントや地元で作られた物品の販売なども行われ、地域の活性化にも寄与しています。

ひなまつり展示会場に携わる住民の声

毎年、テーマを変えて飾りつけをしています。町内外の人が楽しみにしてくれています。また、町内で作られたものを販売し、とても好評なので、これからも連携を進めていきたいと思っています。

団体等情報：四万十遺産ネットワークス
 代表 溝渕博彦様 携帯電話：090-8971-0456



船戸地区 (津野町)



民家「おしどりの巣」
(梶原町)



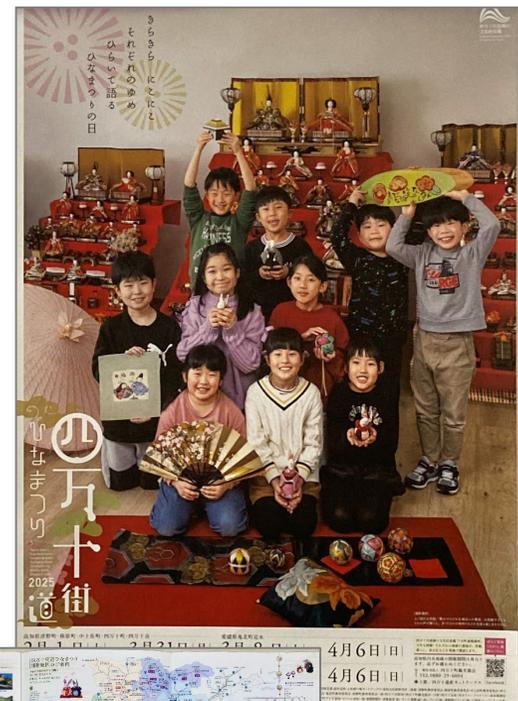
高樋沈下橋(中土佐町)



雲旧都築邸(四万十町)



網代御殿(四万十市)



子どもたちなど、地域住民の笑顔が光る、ポスターとパンフレット

① 地域内での
魅力の共有

② 活性化の
目標の共有

③ 地域外への
広報

④ 魅力を引き
出す開発

⑤ 確保と運用

⑥ 人づくり